



発行者

北海道へき地・複式教育研究連盟
www.hamanasu.com./dohekire

委員長 河田 茂

編集責任者 高田 宏昭

印刷所 広小路印刷株式会社

滝川市一の坂町西3丁目1番31号 TEL0125-22-4325

題字 書家 濱谷 彩鶴 (はまや さいかく) 氏

地域の核をなくさないためにできること

北海道へき地・複式教育研究連盟委員長 河田 茂



平成26年度の活動を終えるにあたり、全道各地の会員の皆様に改めて感謝を込め、ご挨拶申し上げます。

今年度は、第63回全道へき地複式教育研究大会十勝大会を、全道各地より多数

の参加者を得て、盛会裏に終えることができました。昭和27年、全国単級複式教育研究大会が開催され、全国へき地教育研究連盟が発足したへき地教育の聖地とも言うべき場所で、子どもたちの教育に情熱を燃やす十勝の教師の思いと、確かな実践が見て取れるすばらしい大会となりました。この十勝大会では、道へき・複連が進めてきた加盟校の減少に伴う組織・研究体制見直しの一環として、実践研究発表大会を廃止し、1日目の全体会に3本の実践発表を組み入れる新たな試みを実施しましたが、多くの参加者による熱心な協議をいただき、全道の優れた実践を交流し合う大変有意義な機会となりました。今回の大会運営をモデルとして改善を重ね、さらなる大会の充実を努めていきたいと考えています。また、次年度第64回全道大会開催地となる宗谷地区で、9月にプレ大会

を開催しました。道へき・複連の第9次長期5か年計画の初年度として5年間に渡る研究の方向性をしっかりと指し示す大会となりました。

さて、全国的にへき地複式校の統廃合に歯止めがかからない状況が続いています。文科省では、学校適正規模の新たな手引きを示し、小規模校の統廃合を支援するための予算化を進めています。地域にとって、核となってきた学校がなくなることは大きな問題です。今まで先輩達が熱い情熱と努力で築きあげてきた、へき地三特性を生かした教育実践をしっかりと進め、地域の核として学校が存続していけるよう実績を積み上げていくことが今何よりも重要です。教育研究を本分として歩んできた本連盟の役割は、加盟校が減少していくこれからこそ益々重要になって来ます。

終わりになりますが、今後も、これまで培ってきた北海道のへき地・複式教育の財産を生かし、各校の実践研究を積み重ね、少なくなった加盟校がしっかりと手を取り合い、へき地・複式教育の充実と発展に努めていきましょう。今後とも会員の皆様のご理解とご協力をよろしく願いますとともに、今年度のご支援に対して感謝とお礼を申し上げご挨拶といたします。

平成26年度 会務報告

事務局長 柿崎 秀顕

1 一般経過報告(概要)

- 5月9日 平成26年度定期総会(9:30~)
第1回組織検討委員会
- 19日 第1回企画委員会
- 19~20日 研究推進委員会
第1回常任委員会、関係機関挨拶回り
- 28~30日 全へき・連春季総会・第1回理事会
(東京~委員長)
- 6月17日 道へき・複連情報150号発行
道へき・複連情報150号HP更新依頼・更新
- 19日 14管内組織一覧、研究大会等の情報を各管内事務局長に送信
道へき・複連平成26年度要覧のHP掲載依頼
- 21日 道へき・複連OB会役員会
(委員長、事務局長、次長)
- 25日 宗谷大会開催に向け宗谷教育局及び管内教育長会議において、協力依頼を行う(委員長、事務局長)
- 27日 第2回常任委員会
北海道小学校長会との教育懇談会
- 7月7日 第2回企画委員会
- 7~8日 第2回研究推進委員会
全へき連及び道へき・複連の要望書を提出(道教委)
- 24~25日 全へき第2回理事会(東京~委員長)
- 8月1日 臨時常任委員会
第2回組織検討委員会
- 2日 道へき・複連OB会臨時役員会(委員長、事務局長、次長)
- 30日 道へき・複連OB会設立20周年記念式典
- 9月26日 宗谷プレ大会各分科会への巡回訪問
(総務部長・財政部長・事務局長)
- 10月15日 第1回監査委員会、第3回常任委員会
- 16~17日 評議委員会、第3回研究推進委員会、第3回企画委員会
第63回北海道へき地複式教育研究大会十勝大会
※1日目:全体会、分散会

2日目:分科会

- 22日 全へき連秋季総会、第3回理事会(東京~委員長)
- 23~24日 第63回全国へき地教育研究大会群馬大会(委員長、研究部長)
※提言発表 白老町立社台小学校
- 11月19日 全へき連第4回理事会(東京~委員長、研究部長)
- 29日 OB会役員会、研修会(委員長、事務局長、次長)
- 12月2日 道へき・複連情報151号発行・HP更新依頼・更新
- 12日 全へき連第3回図書編纂委員会(東京~研究部長)
- 1月23日 第4回常任委員会、第3回組織検討委員会(ライフオート)
- 2月13~14日 全へき連第5回理事会(東京~委員長)
- 16日 第4回企画委員会、
- 16~17日 第4回研究推進委員会
- 3月4日 道へき・複連情報152号発行・HP更新依頼・更新
- 5月7日 平成26年度第5回常任委員会
第2回監査委員会
- 8日 平成27年度 北海道へき地・複式教育研究連盟定期総会、第1回組織検討委員会、第1回常任委員会

2 一般業務報告

本連盟は、昭和23年に結成され66年目を迎えました。これまでの66年間、地域に根ざした教育を探求するとともにへき地校の教育条件整備を進め、確実に成果を重ねてきました。平成26年度においても、研究、組織、教育条件整備等の課題解決に向け業務を推進してきましたので、その概要を申し上げます。

◇ 研究面では、第9次長期5か年研究推進計画の初年度として、第63回全道へき地複式教育研究大会十勝大会、第64回全道へき地複式教育研究大会宗谷プレ大会を開催いたしました。現地実行委員会、会場校並びに各地区へき地複式連盟(研究会)の多大なご努力とご協力により、実践的研究成果が全道に発信され、第8次長計の成果を継承しつつ、第9次長計へと発展させる研究成果の発信をすることが出来ました。また、昨年度で全道大会に統合することとなった実践研究発表大会は、十勝大会1日目に分散会

として開催し、全道各地のへき地・複式教育の実践発表と交流を行うことができ、新たな体制の研究大会として歩みだすことが出来ました。

◇ 組織面では、各市町村による学校規模適性配置計画の推進や少子化による児童生徒数の減少からへき地・小規模校の統廃合が進み、加盟校及び会員の減少が加速しております。これに伴う今後の組織や事業の在り方、財政運営について、組織検討委員会の答申を受けて、ICT活用による業務推進、会議数の見直しなど、組織運営のスリム化と効率化に向け検討しました。

また、未加盟校への働きかけについては、各地区に道へき・複連発足の趣旨や目的、加盟することのメリット等についての啓発活動を行うなどの意識高揚に向けた取組をお願いしてきました。

◇ 教育条件整備については、3学級4定員や教頭未配置校の解消をはじめ、へき地複式校の抱える諸課題解決のため、全へき連、道小、道へき・複連OB会と連携しながら、関係機関に要請してきました。

- ・道へき・複連OB会が中心となり、平成22年度に全道の小規模・へき地・複式学級を有する学校の実態についてアンケート調査を行いました。現在は、集計作業が完了し、分析を行う段階にきています。また、「へき地手当に関する規則の運用等についての一部改定」により平成22年4月から始まったへき地新級地の適用について、今後も、地域の実態に応じた算定であるか、適切な調整点であるかなどの検討に努め、国や道へ意見具申を続けていきます。

- ・全へき連のホームページ充実の一環である、全国のへき地小規模校のホームページとのリンク作業に取り組みました。加盟校は減少していますが、リンク校は情報環境の整備等により増加しています。

◇ 研究推進、組織確立、財政上の諸課題につきましては、組織検討委員会を設置して検討を重ねてきました。中間答申をもって報告させていただきましたが、連盟だけでなく各地区の課題も踏まえた論議を重ね、時代や社会環境の変化に対応した組織運営を目指してきました。

3 情報関係活動経過報告(概要)

事務局次長 高田 宏昭

5月9日 定期大会で「道・へき複連情報」発

行計画を承認

情報150号原稿依頼

6月3日 原稿集約

4日 編集・校正

17日 発行・発送

20日 道・へき複連ホームページ更新

10月15日 情報151号原稿依頼

11月18日 原稿集約

19日 編集・校正

12月2日 発行・発送

道・へき複連ホームページ更新

2月3日 情報152号原稿依頼

3月4日 発行・発送

4 情報関係業務報告

(1) 情報関係

「道・へき複連情報」(150、151、152号)

を発行し、広報活動に努めました。150号では定期総会特集、151号では第63回全道へき地複式教育研究大会 十勝大会特集、152号では今年度の活動報告及び来年度の本大会である宗谷大会やプレ大会の渡島大会についてのお知らせを掲載しました。今年度開催された十勝大会の推進に際し、ご尽力頂いた十勝へき・複連の皆様はじめ、多くの方に情報提供や原稿執筆を賜りましたことに改めて感謝とお礼を申し上げます。

また、北海道教育大学・地域研究支援センターの協力を得て、道へき・複連ホームページの内容更新をさせて頂いていることに重ねて感謝致します。

最後になりますが、各地区のへき・複連事務局におかれましては、お忙しい中情報提供、加盟校への連絡や配布、お願い等に対して快くご協力いただいたことに心よりお礼を申し上げます。

〈各号の主な内容〉

【第150号】

平成26年度道へき・複連定期総会特集号

- ・総会の報告

- ・第63回全道へき地複式教育研究大会 十勝大会の案内

- ・第64回全道へき地複式教育研究大会 宗谷プレ大会の案内

【第151号】

第63回全道へき地複式教育研究大会

十勝大会特集号

- ・十勝大会の報告
- ・第64回全道へき地複式教育研究大会 宗谷大会案内
- 【第152号】
- 平成26年度「道へき・複連活動報告」特集号
- ・この1年の活動の報告
- ・第64回全道へき地複式教育研究大会 宗谷大会に向けて
- ・第65回全道へき地複式教育研究大会 渡島プレ大会に向けて
- 〈道へき・複連ホームページの内容〉

- 1 道へき・複連刊行物
- 2 研究主題
- 3 全道へき地複式教育研究大会関係・プレ大会関係
- 4 全国へき地教育研究大会関係
- 5 実践研究発表大会
- 6 要覧
- 7 へき地教師の歌「太陽となろう」・シンボルマーク

(2)「全国へき地教育新聞」関係

① 購読拡大の取組

全国へき地教育新聞は、全へき連とへき地・複式校を結ぶ唯一の機関誌であり、へき地・複式教育に係る各種情報を掲載するとともに、私たちの教育実践を発表し、広く交流できる新聞です。しかしながら、へき地・複式校の減少に伴い、購読料の減少が発行を困難にする要因になってきている現状もあります。読者の購読料により刊行される新聞のため、より多くの読者に購読されるよう今後も努めていかなければなりません。各地区へき地・複式連で納入する場合については1部につき150円の還元をさせて頂いていることをお知らせしながら、改めて各地区での「全国へき地教育新聞の購読の強化」をお願いするところです。

(取組の手立て)

- 購読率の低い地区に購読校を増やすよう働きかける。
- 各地区へき・複連に未購読校への働きかけをすると同時に、関係機関に購読料の予算化を働きかける。
- 各地区へき・複連の会議、会合において、購読の呼びかけを行う。
- 「全国へき地教育新聞」の担当者又は、係

を置き、地区内の購読校の把握をし、集金事務を行う。

- 「全国へき地教育新聞」担当者を決め、地区へき・複連との連携を図る。

② 「全国へき地新聞」原稿執筆の取組

・原稿種別、送付月を地区ごとに割り振り執筆をお願いしました(下図参照)。これまでの各地区へき複連および執筆者各位のご協力に対しまして、心より感謝とお礼を申し上げます。尚、全国へき地新聞編集局の依頼として、執筆原稿はメールあるいは封書にて執筆者が直接返信することになっておりますので、次年度も同様をお願いいたします。

・原稿種別について

- 1 評論(市町村教育長、各局指導主事等)
- 2 山紫水明(校長)
- 3 随想(教頭、教務主任、学級担任等)
- 4 心温まる話(どなたでも)
- 5 私の推薦する一冊の本(校長、教頭等)
- 6 やすらぎ保健室(養護教諭)
- 7 さわやか事務室から(事務職員)
- 8 わが町・わが学校(保護者)
- 9 研究実践校紹介(実践校)
- 10 子どもたちの学校紹介(児童・生徒)
- 11 子どもたちの作品(児童・生徒)

・平成26年度 原稿執筆地区一覧

(原稿本数 38本)

原稿種別	8月	9月	10月	11月
1		日高		檜山
2	石狩	十勝	根室	日高
3	渡島	上川	宗谷	空知
4	オホーツク		釧路	
5		胆振		後志
6	宗谷	釧路	空知	根室
7	上川	胆振	十勝	石狩
8	後志	根室	留萌	檜山
9	留萌 渡島	オホーツク 石狩	空知 後志	日高 十勝
10	胆振			宗谷
11		オホーツク	渡島	

平成26年度 総務部活動報告

副委員長 田中 和敏

1 活動経過報告

- 5月9日 道へき・複連総会
第1回組織検討委員会
- 5月20日 第1回常任委員会
常任委員関係機関挨拶回り
- 6月17日 「全国基本調査」及び「加盟校減少
管内状況・インターネット環境調査」
依頼（メール配信）
- 6月27日 第2回常任委員会
- 6月30日 組織検討委員会検討事項確認
（メール配信）
- 8月1日 臨時常任委員会
第2回組織検討委員会
- 9月10日・26日
第64回全道へき複研究大会宗谷プレ
大会
- 10月15日 第3回常任委員会
- 10月16日 平成26年度評議委員会
組織検討委員会中間報告
- 10月16～17日
第63回全道へき複研究大会十勝大会
- 10月29日 「道へき・複連加盟状況調査」依頼
（メール配信）
- 1月23日 第4回常任委員会
第3回組織検討委員会
- 5月7日 第5回常任委員会

2 平成26年度教育予算要望

〈基本的な要望事項〉

1. 教員定数の配置基準および学級編成基準の改善
2. 教職員の生活の安定・向上のための改善
3. 教職員の資質向上に関わる研修についての改善
4. 学校経営の適正化と充実
5. へき地教育の推進についての改善
6. へき地勤務条件の充実

上記「基本的な要望事項」にもとづき、「北海道文教施策・予算策定に関する要望活動」「全へき連と連携した要望活動」を中心に行ってきた。

今後も、へき地・複式教育の教育環境の向上を目指し、ねばり強く取り組んでいく必要がある。

3 へき地級別指定見直しに関する取組

平成22年度の見直しにより、へき地級の指定がはずれた学校、特に複式校でありながら無級地となった学校において会費徴収の同意が得られず、退会を余儀なくされた学校がある。それによる会員の減少は、組織体制や財政面に大きな影響をもたらした。

次期見直しについての具体的な動きは見られないが、道教委の動きを注視しながら、地域の実態に応じた算定であるか、適切な調整点であるかななどの情報収集に努め、全へき連、道小、道へき・複連OB会と連携を深めていく。

4 調査活動

例年実施している「全へき連基本調査」に加え、道へき・複連として「インターネット環境及び加盟校減少管内の状況に関する調査」「道へき・複連加盟状況に関する調査」を実施した。

いずれも各地区の協力によりスムーズに実施することができた。

結果については、評議委員会・総会等で報告するとともに、組織検討委員会等で有効に活用する。

5 組織検討委員会の活動概要

(1) 組織検討委員会の構成

委員長：齋藤 信之（道央ブロック・後志）
委員：横谷 幸司（道南ブロック・胆振）
：禎島 清幸（道北ブロック・上川）
：小澤 浩幸（道東ブロック・十勝）

他に常任委員（河田委員長、田中総務部長、岡嶋研究部長、松枝財政部長、柿崎事務局長）を加え、計9名で構成

(2) 平成26年度の検討課題

①組織の活性化と加盟校拡大

②研究活動の充実深化

③財政の健全化

④その他：今日的課題

・へき地級見直し

・学年別指導（社会科、理科）の充実

平成26年度 大会部報告

副委員長 小澤 浩幸

1 大会名

第63回全道へき地複式教育研究大会十勝大会
第64回全道へき地複式教育研究大会宗谷プレ大会
第63回全国へき地教育研究大会群馬大会

2 十勝大会の概要

(1) 研究主題

主体的・創造的に学び、豊かな心で
たくましくふるさとを切り拓く子供の育成
～へき地・複式教育の特性を生かし、
児童生徒一人一人に未来に「生きる力」
をはぐくむ学校・学級経営と学習指導の
充実をめざして～

(2) 大会スローガン

大空と大地の恵み「十勝野」に生き
新しい時代を切り拓く子らに
豊かな心と確かな学力を

(3) 開催期日

平成26年10月16日(木)～17日(金)

(4) 大会内容

◇16日(木)：幕別町百年記念ホール
開会式
基調報告
分散会(学校・学級経営、学習指導)
閉会式(感謝状贈呈、次期開催地挨拶)
※歓迎交流会：帯広東急イン

◇17日(金)：8町1村9会場

第1分科会…音更町立南中音更小学校
第2分科会…士幌町立上居辺小学校
第3分科会…上士幌町立萩ヶ岡小学校
第4分科会…鹿追町立上幌内小学校
第5分科会…芽室町立上美生小学校
第6分科会…更別村立上更別小学校
第7分科会…幕別町立糠内小学校
第8分科会…本別町立仙美里小学校
第9分科会…池田町立高島小学校

(5) 成果と課題

①会場校と研究協力校との実行委員会、共同研究体制により、授業づくりや大会運営等を組織的に行うことができた。また、学校間の連携が強まり、複式教育の充実につながった。そうした成果を、確実に管内的、全道的なものとしていくことが課題である。
②第9次長期5か年研究推進計画の着実な一歩を踏み出すことができた。「分散会」においても活発な討議がなされていた。貴重な場であるだけに、更に参加者を増やす工夫が必要である。

3 宗谷プレ大会の概要

(1) 主体的・創造的に学び、豊かな心で
たくましくふるさとを切り拓く子供の育成
～へき地・複式教育の特性を生かし、
児童生徒一人一人に未来に「生きる力」
をはぐくむ学校・学級経営と学習指導の
充実をめざして～

(2) 大会スローガン

最北の風薫る宗谷の海と大地に生き
未来を担う子らに 豊かな心と確かな学びを！

(3) 開催期日

平成26年9月10日(水)・26日(金)

(4) 開催会場

第1分科会…猿払村立浜鬼志別小学校
第2分科会…猿払村立浜猿払小学校
第3分科会…浜頓別町立頓別小学校
第4分科会…枝幸町立乙忠部小学校
第5分科会…豊富町立兜沼小中学校
第6分科会…幌延町立間寒別小中学校
第7分科会…礼文町立香深井小学校
第8分科会…利尻町立仙法志小学校
第9分科会…稚内市立宗谷小学校

(5) 宗谷大会の意義

本年度から始まった第9次長期5か年研究推進計画の2年次として、十勝大会の成果と課題を引き継ぎ、更なる充実を図る役割を担うこととなる。また、2回目となる分散会がより有意義な場となるよう、運営の工夫に努めたい。

4 全国群馬大会

(1) 研究主題

ふるさとで心豊かに学び、
新しい時代を切り拓く子どもの育成
～へき地・小規模・複式学級を有する学校
の特性を生かした学校・学級経営と学習
指導の深化・充実をめざして～

(2) 大会スローガン

群馬の風にのり ふるさとを愛し
新しい時代を拓く子どもを 育てよう

(3) 開催期日

平成26年10月23日(木)～24日(金)

(4) 分散会提言

①第6分散会課題6(学習指導の深化・充実)
課題意識をもって自ら学び、仲間と共に
高め合う学習過程の改善・充実を図る
②提言発表者(胆振地区)
白老町立社台小学校 栗田 悠教諭
③研究主題
確かな学力を身に付ける子ども育成
～少人数の特性を生かした
算数科教育実践を通して～

平成26年度 研究部報告

副委員長 岡嶋 治

1 研究主題

『主体的・創造的に学び、豊かな心でたくましくふるさとを切り拓く子供の育成』～へき地・複式教育の特性を生かし、児童生徒一人一人に未来に「生きる力」をはぐくむ学校・学級経営と学習指導の充実をめざして～

2 研究活動の重点と成果

道へき・複連第9次長計の初年次として、実践研究を充実させ、地域に根ざした魅力ある教育活動の創造・発展に努める。

《重点》

- (1) 「第63回全道へき地複式教育研究大会十勝大会」の成功を期した現地実行委員会との連携及び共同運営
- (2) 従来の実践研究大会にかわる発表の場の企画・実践（全道へき複研分散会）
- (3) 道へき・複連第9次長計「実践研究検証期」（第1年次）としての確かな実践、記録の累積・収集
- (4) 「第64回全道へき地複式教育研究大会宗谷プレ大会」の効果的な開催
- (5) 研究資料・情報等の編集と発行（「研究主題・指導形態等一覧」「研究部情報」）
- (6) 各地区へき・複連及び全国へき地教育研究連盟、教育関係各機関・団体との連携

《主な成果》

◎第63回全道へき地複式教育研究大会十勝大会

10月16・17日、十勝管内9会場で開催され、全道から延べ700名をこえる参加者があった。大会スローガン『大空と大地の恵み「十勝野」に生き新しい時代を切り拓く子らに 豊かな心と確かな学力を』のもと、授業公開、熱心な研究協議が行われた。

◎第64回全道へき地複式教育研究大会宗谷プレ大会

9月10・26日、宗谷管内9会場において開催され、全道各地から延べ500名近い参加者があった。大会スローガン『最北の風薫る宗谷の海と大地に生き 未来を担う子らに 豊かな心と確かな学びを！』のもと、自ら学び合う児童の育成等について授業公開、研究協議が行われた。

◎全道へき複研十勝大会分散会

10月16日、幕別町百年記念ホールにおいて、第63回全道へき地複式教育研究大会十勝大会の全体会後に実施した。

道内3地区から、学校・学級経営（1本）と学習指導（2本）の提言発表が行われた。第9次長計に基づいて発表された提言はいずれも質が高く、活発な研究協議がなされた。

◎研究主題等一覧の集計と活用

全道の加盟校の研究主題・研究分野、教科等指

導形態について調査集計し、分析を加えてまとめた。各地区及び加盟校にCD化して配布、HPにも掲載して活用を図っている。

3 研究部事業報告

5月19日 第1回企画委員会

- ・企画委員会の体制と各業務内容の確認
- ・全道へき研十勝大会の参加協力体制について
- ・日程や役割分担の確認と研究推進委員会の運営について

5月19日～20日 第1回研究推進委員会

- ・平成26年度研究部計画の確認
- ・研究推進委員の業務と役割分担
- ・宗谷プレ大会の助言者決定
- ・各管内へき・複連活動状況交流

7月7日 第2回企画委員会

- ・全道へき研、プレ研の進捗状況
- ・分散会の進め方について
- ・今後の研究と資料蓄積について

7月7日～8日 第2回研究推進委員会

- ・研究主題・指導形態等調査発行
- ・研究部情報第1号発行
- ・分散会の運営検討
- ・十勝大会、宗谷プレ大会への具体的協力について

7月23日 全へき連研究図書編纂委員会

9月10日・26日 宗谷プレ大会

- ・宗谷管内9会場（研究協力者）

10月16日 第3回研究推進委員会

- ・分散会の運営確認
- ・研究部情報第2号発行計画

10月16日～17日 十勝大会

- ・十勝管内9会場（研究協力者）

10月23日～24日 第63回全国へき地教育研究大会群馬大会

- ・研究部長参加

10月31日 「第9次長計5か年計画」一覧表 発送

12月12日 全へき連研究図書編纂委員会

2月16日 第4回企画委員会

- ・今年度の活動のまとめと次年度への展望
- ・分散会の反省
- ・次年度の事業計画、研究推進体制について

2月16日～17日 第4回研究推進委員会

- ・研究部情報第2号の発行
- ・今年度の事業反省・まとめ
- ・次年度の全道大会分散会について
- ・各管内へき・複連活動状況交流
- ・次年度の事業計画、研究推進体制について

平成26年度 財政部報告

財政部長 松枝 国義

1 平成26年度業務執行について

- (1) 会計業務については、事務局及び各部、各委員会、各地区へき・複連との連携を図り、計画に従って執行しております。
- (2) 道へき・複連会費については、当初予算より会員が増加したため、納入額がやや増の状態になっております。一部運営資金も活用しながら、計画に従って執行してまいりました。
- (3) 全へき連会計につきましては、前年度より会員数が減少したことにより納入額がやや減っております。全へき連への免除申請を行い、負担金を決定し、全へき連の負担金送付を終えております。また、管理職負担金につきましては、各地区のご協力により入金され、全へき連へ送金することになっております。
- (4) 刊行物の購読促進につきましては、全へき連発行の「へき地・複式・小規模学校の実践事例集(明日を拓く)」のみの取組となりました。各地区へき・複連においては発刊の趣旨をご理解賜り、ご協力いただいたことに感謝いたします。
 なお、送金先については、各地区へき・複連から直接全へき連へ納入することになっております。
- (5) 運営資金会計は、予定よりも若干増加しました。納入された金額の中から規定通り全へき連へ送金いたします。各地区へき・複連のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

2 平成27年度の予算編成について

- (1) 予算編成における収入の見込みについては、学校の統廃合や学校規模の縮小により、学校数・教職員数の減少等が予想されます。昨年度以上に厳しい情勢となることは必至です。予算編成の基礎資料として、3月中旬に各地区へき・複連の加入校数・教員数を調査し、収支予定額を把握した上で予算を編成します。各地区の担当者の皆様にはお手数をかけますが、よろしく申し上げます。
- (2) 平成27年度の一般会計については、諸活動の充実に努めるとともに、削減可能な項目をより意識して予算編成を行い、平成27年度総会に提案します。
- (3) 現在執行中の旅費規定は、予算編成の作業の中で検討し、削減が必要な場合ご協力を願うことも予想されます。
- (4) 全へき連会計は、納入される負担金の範囲内で執行します。各地区へき・複連においては引き続きへき地教員の納入拡大への働きかけや、養護教員・事務職員の納入、及び未加入校の加盟を促すようお願いいたします。
- (5) 刊行物会計については、平成27年度も、本道の実践も盛り込まれた全へき連の刊行物発行が予想されます。各地区へき・複連においては、研究図書を購入として予算付けし、購読促進の取組をぜひお願いいたします。

平成26年度 一般会計執行状況 (平成27年1月9日現在)

【収入の部】

項目	26年度予算	1/9決算	増・減(▲)
会費	3,362,202	3,417,882	55,680
繰越金	81,557	81,557	0
繰入金	1,000,000	1,000,000	0
雑収入	350	1,434	1,084
合計	4,444,109	4,500,873	56,764

【支出の部】

項目	26年度予算	1/9決算	増・減(▲)
研究大会費	510,000	510,000	0
研究調査費	1,850,000	1,444,250	▲ 405,750
研成刊行費	700,000	605,200	▲ 94,800
事務局費	1,384,109	1,138,100	▲ 246,009
合計	4,444,109	3,697,550	▲ 746,559

◇学校数 268校

◇教員数 1587名

【差引残高(1/9現在)】 4,500,873円-3,697,550円=803,323円

第64回 全道へき地複式教育研究大会 宗谷大会の開催に向けて

宗谷へき地複式教育研究連盟
研究部長 浅野 孝一

1 はじめに

昨年の9月10日に1会場、26日に8会場において、第64回全道へき地複式教育研究大会宗谷プレ大会が開催されました。

宗谷プレ大会に向けては、複式校の減少から、多くの町村で単式校も含めた市町村教育研究会による分科会実行委員会を組織して共同研究と研修活動を両輪に授業研究に努めてまいりました。

とりわけ、分科会実行委員会による共同研究では、どの分科会においても授業研究や指導案検討などが6～9月の中で精力的に行われ、宗谷プレ大会に向けた会場校の授業改善やもちろん複式校以外の市町村教育研究会の教師にとっても授業力向上につながる貴重な取組となりました。

こうした取組を経て開催された宗谷プレ大会には、管内・管外より全会場合わせて488人の教職員およびご来賓・学校関係者の皆様にご参加いただきました。公開授業、研究協議では、複式授業の在り方について多くのご助言・ご指導をいただくことができました。この場をお借りしまして、改めて心からお礼申し上げます。

教育研究大会宗谷プレ大会開催にあたり、多大なるご支援・ご協力をいただきました北海道へき地・複式教育研究連盟をはじめ、北海道教育庁宗谷教育局、各市町村教育委員会、会場校・各教育研究会等、教育関係団体の皆様に重ねて感謝申し上げます。

2 宗谷プレ大会の成果と課題

宗谷プレ大会は、北海道へき地・複式教育研究連盟第9次長期5か年研究推進計画の1年次にあたり、第8次の成果と課題を整理し、第9次の課題と研究内容を明確に把握する大会と位置付けてきました。各会場校では、自校の研究課題、研究内容と第9次長計の2分野8課題の研究内容の関連を明確にし、研究推進に努めてきました。

その結果、以下のような成果と課題が明確になりました。

【成果】

- ①開かれた研究会として、単式校の教師とも連携した共同研究体制を組織することができた。
- ②学習規律、学習意欲、学習集団としての高まりなど授業の土台が身につけており、間接指導での自学自習ができている。
- ③若い教師のがんばりが見える活気ある授業であった。児童の姿に研究の成果が現れている。
- ④幼保小中高の連携、理科の複式授業、集合学習、一人学年への対応など宗谷の特色のある多様な研究発信があった。

【課題】

- ①宗谷には保護者・地域と結びついた「子育て運動」等、第1分野に関わる取組が多い。それらを研究の中に位置づけていくことが必要である。
- ②研究を通して、どのように子供が変容したのかをしっかりと把握し、目に見える形で成果をとらえる工夫が必要である。
- ③複式校以外の教師にとっても、「豊かな学び」のある研究大会にしていくことが大切である。

3 宗谷本大会に向けて

第64回全道へき地複式教育研究大会宗谷大会は、北海道へき地・複式教育研究連盟第9次長期5か年研究推進計画の2年次にあたります。宗谷複式教育研究連盟としては、第1分野「学校・学級経営の深化・充実」第2分野「学習指導の深化・充実」の課題を受け、研究を進めてまいりたいと考えています。宗谷大会でめざす5つの理念は以下のとおりです。

- ①オール宗谷で学びの場をつくる大会に
- ②全道に宗谷の教育を発信する大会に
- ③子供の現実から出発し子供に返す大会に
- ④創意工夫による低コストの大会に
- ⑤ICTの活用で時間と空間の壁を越える大会に

第64回全道へき地複式教育研究大会は、平成27年9月17・18日に開催いたします。さらに授業に磨きをかけて、全道の仲間に宗谷の複式教育のよさを発信していけるように努めてまいります。複式教育に熱い思いを寄せる全道の多数の皆様にご参加いただけることを心から期待しております。

第65回 全道へき地複式教育研究大会 渡島プレ大会の開催に向けて

渡島複式教育研究連盟

事務局長 小野 俊英

1 渡島複式教育研究連盟のあゆみ

渡島単級複式教育連盟が発足したのは昭和27年です。この年は、第1回全国単級複式教育研究大会が十勝地区で開催され、空知地区では全道大会が開かれるなど、単複の研究活動がますます高まっていた年でもあり、へき地複式教育研究を先導する北海道の意気込みがうかがわれます。

渡島で第1回の研究大会が開催されたのは、発足翌年の昭和28年で、以後絶えることなく研究発表並びに交流の場を設定しながら、継続的・累積的に研究を推進してきました。

こうした取組の中で、道の第6次長計最終年度となる平成15年に、「伝統息づくロマン溢れる渡島の大地から明日に向かってはばたく子らに躍動と喜びを！」をスローガンとする、第52回全道へき地・複式教育研究大会渡島大会を管内8町9会場で開催し、大きな成果を収めることができました。

今年度は、道の第9次長期5か年研究推進計画の実践研究検証期初年度にあたり、第60回となる渡島複式教育研究大会七飯・森大会において、推進計画の検証に着手したところです。

2 管内の研究推進の方針

プレ大会開催に向け、管内では渡復連盟内に実行委員会を組織して取組を進めており、以下に示す研究推進方針に従って取組を進めています。

- (1) 平成27年度は、第9次長計の2年次「実践研究検証期」となる。第8次長計の成果を基盤とし、豊かな心を育てる研究の系統的・発展的実践と記録の累積に努めるとともに、確かな学力を育てる学習指導の典型化・定型化を図る。
- (2) 学校・学級経営分野においては、各課題に即した評価方法の工夫に努めるとともに、学習指導分野においても、少人数・複式指導に即した評価方法の工夫に努める。
- (3) 研究計画の全体構成である2分野8課題別研究の趣旨について一層理解を深め、各校の研究や共同研究の内容が、全体構成のいずれかに位置付けられるかを明確にして研究の深

化を図る。

- (4) 近隣学校やブロック内学校間の連携を図り、2分野8課題別共同研究を深めながら研究の組織化を図る。

3 渡島プレ大会の概要

- (1) 大会期日：平成27年9月25日(金)
- (2) 会場：渡島管内各9会場
- (3) 大会組織：
 - ・実行委員長 渡復委員長
 - ・大会事務局 北斗市立沖川小学校
 - ・第1プロ事務局 福島町立吉岡小学校
 - ・第2プロ事務局 七飯町立軍川小学校
 - ・第3プロ事務局 八雲町立浜松小学校
- (4) 各分科会校(H26現在の校内研究教科、年次)
(H26.4現在の学校規模)

- ア 松前町立小島小学校〈全教科1/1〉
普4+特0(複式2学級)、児童数30人
- イ 知内町立涌元小学校〈算数科3/3〉
普3+特0(複式3学級)、児童数25人
- ウ 北斗市立島川小学校〈国語科3/3〉
普3+特2(複式3学級)、児童数26人
- エ 七飯町立大沼小学校〈算数科2/2〉
普5+特1(複式1学級)、児童数63人
- オ 七飯町立峠下小学校〈算数科3/3〉
普3+特0(複式3学級)、児童数26人
- カ 森町立濁川小学校〈国語科1/3〉
普3+特1(複式3学級)、児童数13人
- キ 八雲町立東野小学校〈算数科2/2〉
普4+特1(複式2学級)、児童数32人
- ク 八雲町立野田生小学校〈算数科1/3〉
普3+特1(複式2学級)、児童数18人
- ケ 八雲町立山越小学校〈算数科3/3〉
普3+特0(複式2学級)、児童数10人

4 おわりに

最後に、道南での開催となり、遠方の方も多いとは思いますが、全道各地より、多数の方にお集まりいただき、今後の道内へき地・複式教育推進及び日頃の指導の参考としていただきたいと思います。また、次年度の本大会の成功のために、多くのご指導をいただきますことを期待しております。有意義な大会にしたいと考えておりますので、第65回全道へき地教育研究大会渡島プレ大会に、ぜひ参加いただきますよう、心よりお願い申し上げます。